

- 学会主催地区大会・研修会等の報告
  - [関東甲信越地区研修会報告\(岡安朋子\)](#)
  - [東北地区大会報告—子どもを支える視点と手がかり—\(高橋絵里香\)](#)
  - [香川スクールソーシャルワークセミナー報告\(富島喜揮\)](#)
  - [九州・沖縄部会第3回大会報告\(土井幸治\)](#)
  
- [第6回福島大会のご案内\(第6回福島大会準備事務局\)](#)
- [自由研究発表の募集](#)
- [事務局日より\(学会事務局\)](#)

### 『学校ソーシャルワーク研究(報告書)』『スクールソーシャルワーカー配置に関する全国自治体調査』の同封

---

昨年の夏以降、本学会研究委員会(岩田委員長・法政大学)で作業に取りかかっていた表記調査報告書が『学校ソーシャルワーク研究』の報告号として刊行されました。本調査は、学会会員や理事、地区世話人の方々が最寄りの自治体に働きかけ、交流・対話しながら得た情報や、研究委員会委員による都道府県・市町村等の教育委員会担当者への電話がけなど、人と人とのつながりのなかでできあがってきたものです。調査の結果とともにそのプロセスで得られたものも大きな事業活動でした。

本会報をお送りした方には同封しております。ご確認ください。

少し多めに製本しております。別途、ご入り用の方は、恐れ入りますが、1冊500円(送料込み)でお送りします。[フォーム](#)よりご連絡ください。お近くの方にもお声がけください。

#### <学会主催地区大会・研修会等の報告>

[関東甲信越地区研修会\(基礎研修\)「子どもを取り巻く環境への働きかけ～学校ソーシャルワークとは～」](#)  
[岡安朋子\(横浜市教育総合相談センター スクールソーシャルワーカー\)](#)

---

8月14日(土曜日)というお盆の真っ只中、そして厳しい暑さの中、横浜市教育委員会の後援を受けて、このたび日本学校スクールソーシャルワーク学会主催の関東甲信越地区研修会を横浜市教育委員会の所在地でもある横浜市教育文化センターにて行いました。横浜市立学校教諭、横浜市教育委員会関係者、横浜市スクールソーシャルワーカー、教育行政機関その他より、総勢47名(講師含め)の方々が参加されました。案内を配布した際に、“興味があるのでぜひ参加したいがどうしても日程の都合が合わないのが”という声も数多く聞かれ、スクールソーシャルワークを学びたいという意欲や関心の高さを実感しました。

研修内容ですが、まずはじめに、横浜市ではスクールソーシャルワーク(以下、SSW)は調査研究事業の段階でありませんが、「横浜市におけるスクールソーシャルワーカー(以下、SSWr)の取り組みについて」、筆者が簡単にご報告させていただきました。内容的には、横浜市のSSWの活用事業概要、SSWの配置、勤務形態、職務内容、活用事例、そしてこれまでの成果と課題です。

次に、目白大学の大崎広行教授より、基礎研修講座として、「全国的なスクールソーシャルワーカーの活動状況」についてご講演いただきました。日本におけるSSWrの導入の経緯や活用事業の位置づけ、全国のSSW活用事業における実績をデータ等により解説していただき、さらにスクールカウンセラー(SC)とSSWrの違いや役割という点についてもお話いただきました。アンケートによりますと、「SSWrという言葉は知っていたが、その実際が分からなかった」、「SCとSSWrの違いがよく理解でき、SSWrの必要性を実感した」という声が多かったです。また、「現場ではとてもその必要性が高いと思っているが、その声をどう上げていっていいのか分からない」ということや、「その自治体に合ったSSWrが必要ではないか」という意見がありました。

10分間の休憩を取った後、佐々木千里先生による演習、「事例を通して学ぶ学校ソーシャルワークを活用した児童・生徒支援」が行われました。演習を始める前に、SSWとは、子どもと環境、学校現場でのSSWrの支援について講義をしていただきました。次に、グループ別(なるべく属性が偏らないような配慮をして)となり、事例を検討しました。佐々木先生ご自身もおっしゃるように、「眠らせない研修」ということで、グループディスカッションを通して、各グループが検討した内容を発表、そして最後にはグループが和気藹々となる様子も見られました。演習後もアセスメントシートについてなど積極的な質問が見られました。アンケートによりますと、「アセスメント方法やシートの使い方が分かった」、「児童・生徒に対して、組織的に対応していくことの可能性が理解できた」、「ケース会議を組織として位置づけるの必要性を感じた」、「校内でもこのような研修をしたい」という声がありました。

最後に、横浜市においては、SSW事業はまだ始まったばかりで模索中です。教育委員会、現場の教員、行政機関等の方々からその必要性を実感する大変よい機会になったと思われまます。そして、横浜市のSSW活用事業がこれからも継続していくことを強く希望します。この度は、横浜市に限定して参加者の方を募りましたが、大崎先生、佐々木先生、鈴木先生、横浜市教育委員会の指導主事の方々、関係者の皆様はじめ、学会員の方々、その他多くの方々にご協力をいただき無事に研修を終わることが出来ました。本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

#### <学会主催地区大会・研修会等の報告>

日本学校ソーシャルワーク学会東北地区大会報告「子どもを支える視点と手がかり」

高橋絵里香(東北地区担当理事)

9月11日(土)、日本学校ソーシャルワーク学会東北地区大会を仙台において開催いたしました。東北地区では、予算削減の影響を受けて、「スクールソーシャルワーカー活用事業」が縮小されたり、有資格者の雇用が進まないなどの課題があります。その一方で、「スクールソーシャルワーカー(SSWr)」という名称でなくても、学校ソーシャルワークの視点を持ち、子どもたちが学習して発達していくことができるように、支援をしたり環境調整をしたりする人が増えつつあります。そこで今回は、教員やスクールカウンセラー(SC)、地域の保健・福祉の専門機関の相談員等とSSWrとのコラボレーションを企画しました。

基調講演として、東北文化学園大学准教授の氏家靖浩氏(東北地区世話人)から、「臨床教育学からみた学校ソーシャルワーク」と題して講演をいただきました。臨床教育学を語る際のモデルとして学校精神保健を例示して説明がなされました。学校ソーシャルワークに関しては、教員やスクールカウンセラーがまだしていないことをしたり、しようとしていることを応援する、話を聞くだけでなくきちんと説明する等の提言がありました。

テーマ別分科会は3つに分かれて行いました。

1つめは、宇都宮市子ども家庭課家庭相談員の土屋佳子氏(会員)と宮城県SSWrの門脇祥子氏(会員)により、就学前の子どもたちを地域のどのような場やどのような方法で支えるか、ということについて話し合われました。

2つめは、大崎市立古川第四小学校教頭の壺谷善孝氏と宮城県SSWrの安藤操里氏(会員)に、拠点校でどのようにSSWを展開してきたか、ケース会議開催の意義を中心に報告をしていただきました。初めてSSWrが導入されて試行錯誤しながらも、養護教諭や特別支援教育コーディネーターと信頼関係を構築しながら、協働していく様子がうかがわれました。

3つめは、宮城県SCの北村健司氏(臨床心理士)が、他機関との連携が必要となりそのコーディネートをSSWrに担ってほしい事例を報告したあと、宮城県SSWrの望月晃二氏がSSWの視点から補足をしました。参加者とともに学校の構造やSCとSSWrの活動の違いについて理解を深め、教育現場の危機的状況について認識の共有を図りました。

今回は、会員を中心に手づく感満載の大会でした。しかし、参加者は会員よりも一般の方が多かったため、次回は是非まだ参加したくない会員に参加していただきたいと思えます。

来年は、福島大学での全国大会が予定されており、東北の基盤を強化していきたいと考えています。

また、昨年に引き続き「東北の学校ソーシャルワーク」第2号を刊行しました。一部500円(送料別)で送付したいと思えますのでご希望の方は学会事務局までお問い合わせください。

#### <学会主催地区大会・研修会等の報告>

香川スクールソーシャルワークセミナー報告

富島喜揮(四国学院大学・中国四国地区世話人)

去る10月3日(日)、四国学院大学ノトス館において、2010年度香川スクールソーシャルワークセミナー(香川SSWセミナー)が開催されました。ちなみに、本セミナーは、2006年度から実施しており、今回は5回目の開催となります。

今回のセミナーは、『協働の発想—子どもを支えるネットワークづくり—』と題して、支援する側が連携することの意味と具体的に連携を図るためのヒントを得ることを目的に実施しました。

午前中の市民講座では、『子どものニーズに応える学校の支援体制』と題して、香川大学教育学部付属教育実践総合センター長の七條正典先生を講師に迎え、多職種による連携の必要性とその意義について話していただきました。

七條先生は、子どもを支えるには、支援者それぞれがケースを抱え込むのではなく、支援者もお互いに支えあうことが大切であると、連携することの意味について分かりやすく話して下さいました。内容的には、教育相談をベースにしたものでしたが、話の根底には子どもを理解するといったことが一貫しており、教員のみならず、スクールソーシャルワーカー(以下、SSW)をはじめ子どもを支援する立場にある者には興味深い内容でした。

午後からのワークショップでは、『子どもの力を活かすケースマネジメント』と題して、大阪府教育委員会SSW、豊能地区チーフSSWの大塚美和子先生を講師に迎え、エコマップを活用して子どもの支援体制について学びました。大塚先生の用意された事例は、当事者を取り囲む外的リソースがたくさんあり、支援のためにリソースをどのように活用するかを考えるには、十分すぎる事例でした。

主催者としては2時間半と時間を多く設けたつもりでしたが、それぞれのグループが熱心に話し合いをしたため、時間が足りないくらいでした。参加者の一人は、普段一人頭の中であれこれと事例を考え、結局まとまらなくなっていたが、図式化したり、みんなで話し合うことで、状況が整理できるということがわかったと、ワークショップでの体験を述べていました。

セミナー終了後は、近くのカフェで希望者による茶話会を持ち、親交を深めました。

今年度のセミナーは、参加者がスタッフを含め約50名程度とこじんまりとしたものでしたが、専門職以外に子どもに関わる方たちの参加もあり、裾野の広がりを感じるものでした。

この度のセミナーに対して、多大なご支援をしてくださりました学会をはじめ多くの関係者の皆様方に感謝申し上げます。報告を終えます。

#### <学会主催地区大会・研修会等の報告>

日本学校ソーシャルワーク学会九州沖縄部会第3回大会 in SAGA

土井幸治(実行委員長・福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー)

12月11・12日の2日間にかけて、日本学校ソーシャルワーク学会九州沖縄部会第3回大会が永原学園西九州大学にて開催されました。2008年度から九州・沖縄地区での大会が福岡県、熊本県で開催されてきましたが、今大会では「学校ソーシャルワークは九州がリードする!!」をテーマに学校ソーシャルワーク(以下SSW)に関する議論と関係者のネットワークを深めることを目的で開催されました。参加者は77名でした。参加者の内訳としては、九州各県に加え九州・沖縄地区外からの参加もあり、教育委員会、学校教員、学生、スクールソーシャルワーカー(以下SSWr)などさまざまな職種での参加がありました。

### 研修会

SSWに関する認知の拡大と現任者の質の向上を目的に研修会の企画をしました。

基礎研修として、福岡県立大学講師の奥村賢一先生による「学校ソーシャルワークの基礎的役割と機能」というテーマで研修をしていただきました。新任のSSWrや学校教員の参加が多いなか、わかりやすく説明いただいたとの好評の声を耳にしました。

また専門研修として、同大学教授の門田光司先生からは「学校ケースマネジメントの方法」というテーマで研修をしていただきました。こちらは基礎研修修了者や現場経験のあるSSWrといった九州・沖縄地区では顔なじみの参加者による研修となり、質の高い研修ができました。

最後に研修修了の証として修了証書が手渡されました。今後、このような研修活動も充実させていきたいと思えます。

### シンポジウム

シンポジウムでは、教員の立場として唐津市立久里小学校初任者指導教員の牟田恭子先生と心理士の立場として学校法人星生学園の加藤雅世子先生に加え、SSWrの立場として私の3者がシンポジストとして登壇しました。コーディネータには、九州ルーテル学院大学講師の岩永靖先生をお迎えし、「学校ソーシャルワークの専門性について考える」という演題で話題提供及びフロアを含めた議論が繰り広げられました。

牟田先生からは主に校長時代に学校経営と子どもへの関わりをなかで痛感されたことやご苦労されたことを話されるなか、「学校現場にSSWrは絶対に必要です。私は応援しております!」という熱いエールをいただきました。また加藤先生からは、不登校対応への学校現場の課題について統計などを用いて科学的に説明いただき、そのアプローチとしてSSWの必要性を話していただきました。SSWrとして、2つの事例を基にSSWの専門性として価値、知識、技術の必要性について話題提供しました。フロアからは、「SSWrとSCrの違い」「具体的な働きかけ方」「学校とSSWrの連携」「専門的な知識とは」「専門性をみにつけるためには!」などさまざまな意見が飛び交うシンポジウムとなりました。

### 大宴会

大宴会では、吉野ヶ里温泉「卑弥呼の湯」の宴会場を貸し切って、膝をつき合わせての交流会となりました。各県、各個人の自己紹介や近況報告が終わったかと思うと熊本県からの余興をいただき、会場は一気に一つの輪となることができました。最後には、大会開催地ホームとして佐賀県・福岡県・長崎県の若手SSWrチームによる余興『TKG-8』で感謝の気持ちを表現させていただきました。九州・沖縄地区には、芸達者なメンバーが多いことを発見できたことと参加者間の関係が深まったことが何よりだったと思います。

### 自由研究発表

2日目の自由研究発表では、九州・沖縄地区内の研究者、実践者による実践報告、各地区の現状と課題などさまざまなテーマでの報告をいただきました。研究者や実践者の発表の機会を設け、SSW研究を深めていききっかけになったのではと思います。

大会を終えて、参加者からは「温かい会でした。」「また来年度以降も開催して欲しい。」「もっと学校や関係機関など広くに広めて欲しい。」などのご意見をいただきました。今後も今回出来た九州・沖縄地区の輪を大切に、SSW関係者を含め、研究に実践に力を入れていければと思います。

最後に、大会が無事終了できたのも大会参加者の皆さま、大会開催にあたってご協力いただいた皆さまのお力添えがあったからこそと思います。心より感謝申し上げます。

## 第6回 日本学校ソーシャルワーク学会 福島大会 案内版 大会テーマ:学校づくりにおけるスクールソーシャルワーカーの役割 第6回福島大会準備事務局

2011年度の第6回大会は、東北・福島で開催します。

この数年、年を追うごとに、スクールソーシャルワーカーの姿が、実践・業務、施策・事業・行財政の様々なレベルで顕在化しはじめています。従来の学校教育と児童福祉、保健福祉などとの連携問題も、遅々としつつも前進的な課題へと変化しつつあります。その中で、改めて、学校(スクール)に立脚したソーシャルワークのあり方について考えていきたいと思っています。

スクールソーシャルワーカーの仕事がこれからの学校づくりや学校改革にいかにか寄与、あるいは問題提起をすべきか。今回の大会シンポジウムではスクールソーシャルワーカーが子ども・保護者・教師の共同参加による「学校づくり」をめぐる、会員内外のみなさんと議論できることを楽しみにしております。

温泉地の多い福島でリフレッシュはいかがでしょうか。

### 会場

福島大学(福島市)([アクセス](#))

### 日時

2011年7月2日(土曜),3日(日曜)

### 第1日目

- 12:00:大会受付
- 13:00:会場挨拶
- 13:10-16:10:大会企画シンポ「学校づくりにおけるスクールソーシャルワーカーの役割」
  - 発題「学校ソーシャルワークにおける学校論をめぐって」  
報告・司会 鈴木庸裕(福島大学)
  - 「スクールソーシャルワーカーと学校の再生」(仮題)  
パネリスト:山下英三郎氏(日本社会事業大学)
  - 「教育臨床学からみた学校支援とスクールソーシャルワーカーへの期待」(仮題)  
パネリスト:田中孝彦(武庫川女子大学)
- 16:30-17:10:年次総会
- 17:30-:懇親会

### 第2日目

- 9:30-12:00:自由研究発表分科会(自由研究発表の募集中です)
- 13:00-15:00:課題研究分科会(以下は仮題です)
  - 第1分科会「非行に関わるSSW実践」
  - 第2分科会「児童虐待対応、スクールソーシャルワーカーに何ができるか」
  - 第3分科会「大学生とキャンパスソーシャルワーカー」
  - 第4分科会「SSW実践と教育行財政課題」

### 大会参加費

- 参加費
  - 会員・一般:事前3,000円、当日4,000円
  - 院生会員:事前2,000円、当日3,000円
  - 1日目シンポのみ:一般1,000円(当日)、学部学生500円(当日)
- 懇親会費:3,000円

\*追って、大会申し込み専用の郵便振込先をご案内します。

## 大会事前企画「基礎研修・専門研修」(第1日目)

7月2日

- 10:00:研修会受付
- 10:30-12:00:基礎研修、専門研修

\*基礎研修および専門研修の企画、参加費は別途、後日、ご案内します。

## 第6回大会福島大会での「自由研究発表」の募集

---

第6回大会時の「自由研究発表」の募集をいたします。ふるって、ご応募ください。

- 発表者資格:2011年度本学会会員
- 応募方法:以下の必要項目を学会事務局(大会事務局)[鈴木庸裕宛メール](#)にてご連絡ください。折り返し自由研究発表の執筆要項をお送りします。  
(題目、簡単な要旨、所属、氏名、連絡先、パワポイントなどの機材使用の有無)
- 受付期限:2011年4月10日(厳守)
- 備考:諸作業の都合上、4月30日までに、要旨集掲載用の原稿原本を郵送いただく予定です。

## 事務局だより

---

### 2010年度第2回理事会報告

9月26日、東京駅八重洲俱樂部10:00-15:00。

報告事項:会員の異動、第5回大阪大会収支報告、その他

討議事項:第6回福島大会の骨子案の検討、編集委員会関係(学会誌の査読体制の充実、第6号の刊行体制の確認)、研究委員会関係(全国自治体調査の実施状況と今後の課題)、研修委員会関係(基礎研修・専門研修等)の内容基準や「受講証明書」の発行、地区ごとの運営のあり方、学会からの運営補助のあり方)、第7回大会の方向性について、等。

次回、第3回理事会(常任理事会)を大会開催地・福島で4月に予定。